

4冊で4冊!

新刊新書 サミング・アップ

はたしてトランプ米大統領の存在は民主主義の異端なのか。本書はこの問いから始まり、宗教学者である著者が古代・中世の神学史を手掛かりに、「正統」と「異端」といった考え方がどこから発生し、どう発展していったのかを考察する。

そこから、トランプ大統領と現代政治のポピュリズムにおける正統と異端の意味を検証。「みんな違ってみんないい」という言葉が示すように、それぞれがそれぞれの「自分ファースト」の小集団に閉じこもることをよしとする社会は、既存の体制や組織、公共機関、司法制度などの、これまで当然とされてきた正統性を揺るがし、社会の健全性が失われる危険性があると説いている。

異端の時代

正統のかたちを求めて

森本あんり 著



岩波新書
860円+税

子どもの英語に どう向き合うか

鳥飼致美 著



NHK出版新書
820円+税

2020年に小学校英語が大きく変わる。「教科化」され成績がつくことで、児童が苦手意識を覚えることも懸念される。そのとき、親はどう子どもを支えていけばよいのか。英語の授業は毎日あるとしても1日のうち1時間程度。親が期待するほどの英語力を身に付けるわけではない。子どもの頃に習った英語は、しよせん「お子さま英語」であり、どこかで「大人の英語」に脱皮しなければならぬ現実がある。母語の能力を育てることが、将来、使える英語につながる。子どもを取り巻く英語教育の問題点を、言語、英語教育史、発達心理学などさまざまな視点で考察しながら、未来へつながる英語力を育てるための心得をまとめていく。

日本人は米国側の原子爆弾プロバガンダを信じ、とかく「米国が原爆を造り、日本を降伏に追い込むためやむをえず使った」と聞かされてもきた。しかし、これは完全な虚構だという。

原爆は、ケベック協定の下で英米加によって共同開発されたのであり、実際は使用する必要がなかったにもかかわらず、戦後の国際政治を牛耳ろうとする米国大統領らの野望のために使われ、無警告投下は真珠湾攻撃に対する懲罰だったとも。その後の核拡散も彼らの無知と愚行によると、公文書研究の第一人者の著者は膨大な資料を基に示す。

原爆 私たちは何も知らなかった

有馬哲夫 著



新潮新書
800円+税

徳政令 なぜ借金返済をしなければならないのか

早島大祐 著



講談社現代新書
880円+税

かつて「徳政令」という名の下に、借金が棒引きされるという行為がまかり通っていた時代があった。現代社会ではまったくありえない話だが、中世社会では「徳政」という美名によって行われていた。それも、公権力が法令を出して債務放棄を承認していたという。なぜこうした不思議な法が認められていたのか。中世の金融・商業・流通の仕組みを通して、この謎に迫っている。

困窮した御家人の財政を再建するために、売却された土地の返還や債務の帳消しを命じる幕府法を鎌倉幕府が発令したことからは始まり、16世紀までには好ましくないものとして変化していった過程を明らかにする。